

野生鳥獣による農作物被害対策担当者研修 初級編第4回「集落環境診断編」

- 1 日時 令和2年11月20日(金) 午前10時から午後4時まで
- 2 会場 小座山農村集落センター
- 3 参加者 17名(市町村職員, 関係機関(JA等)職員, 県職員, 地域住民など)
- 4 内容

午前の部では,集落環境診断の目的・進め方を学んだ後,実際に集落を歩きながら,鳥獣の痕跡,侵入経路,果樹や森林の整備状況,侵入防止柵の維持管理状況を確認しました。午後の部では,3グループに分かれ,午前中に確認した内容を地図上に書き込み,集落の状況を可視化した後,集落の課題を整理,その対策を考えるグループワークを実施しました。

研修全体を通し,集落環境診断の手法や住民,行政,鳥獣被害対策の専門家,三者で取り組む被害対策の重要性を学ぶことができる研修となりました。



座学研修の様子



実習研修の様子



ワークショップの様子



ワークショップの様子

受講生の声(抜粋)

- ・集落環境診断という名前は知っていたが,進め方や手法は知らなかったので,研修を受け良く理解できた。
- ・地域ぐるみでの取り組みが鳥獣被害の低減につながることを,たくさんの人に知っていただきたいと思った。

講師からのコメント

集落環境診断は「集落環境診断(予備診断)」「集落勉強会」「集落環境診断(本診断)」「合意形成ワークショップ」「対策実行」「効果検証」までが一連の流れであり,住民と行政が一緒に対策を考える必要がある。また,被害対策に取り組むメンバーは固定化しやすいため,イベント開催に併せて鳥獣被害対策の勉強会を実施する等,鳥獣害に興味のない人にも鳥獣害の現状・対策について知ってもらう方法を考えることが大切。